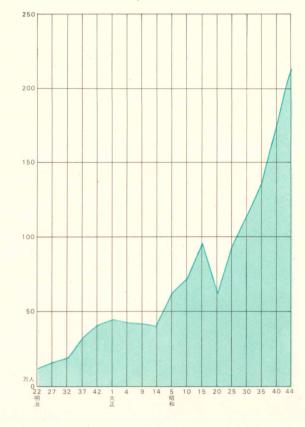
History Outline

安政5年〈1858〉に米英仏露蘭5ヵ国との間に修好通商条約が結ばれ, 翌年6月,戸数100戸の農漁村の横浜村に開港場〈貿易港〉が開設 された. 日本人商業地区・外国人商業地区を中核として,中央に 官庁〈運上所〉,隣接の太田屋新田に社交場,東海道からの入口には 警護のための陣屋〈太田の陣屋〉が設けられた. 開港の翌年には 堀割が完成、関門が設けられ、明治初年代にかけて移住者の増加に伴い 太田屋新田その他が埋立てられ、新開の町が関内に設けられた。 明治元年の人口は約3万人、本町ほか19ヵ町であった。 その後、 鉄道用地の埋立,羽衣町一帯の娯楽街化,吉田新田地域内の市街化が 進んだ. 明治11年に郡区町村編成法により前記の地域を含めた 80 カ町が横浜区となり、同22年には横浜区の区域に市制が実施された。 明治34年,一大貿易港としての横浜は,第1次の町村合併を行ない, 44年に第2次合併. 大正12年の大震災後,復興計画によって 貿易港都・工業都市としての市是が確立、昭和2年、11年、12年と 合併が続いた後、昭和14年の第6次合併により現市域が確定した。 横浜市は明治・大正にかけて港湾貿易港として成長、大正から昭和・ 戦後にかけては重工業都市の側面が発達したが,近年は東京の ベッドタウンとしての住宅都市化の傾向が著しい. 都市化に 内在する矛盾を最少限度にくいとめ,調和のある国際文化管理都市を

人口の変遷〈明治22年~昭和44年〉 Transition of Population〈1889-1969〉

建設することが当面する課題となっている.

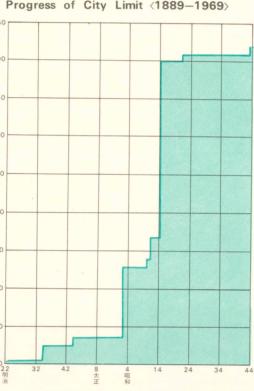


In 1858, Japan signed treaties of commerce and amity with the United States, England, France, Russia and Holland and, in June next year a Trade Port was opened in Yokohama Village, a farming and fishing village with 100 houses. The government office, a society center and Ota Jinya (Ota guardhouse) were established, surrounding the Japanese commercial section and the alien commercial section as the nucleus. To deal with increasing settlers into this area during the succeeding decade, Otaya-shinden and other fields were filled up and a new town was opened within the barrier to receive them. In 1867, it contained 30,000 population and 19 towns including Honcho. After that, progresses were seen in filling up fields for railway cites, establishment of amusement quarter over Hagoromocho area, and urbanization in the area of Yoshida-shinden. In 1878, a prefectural systematization law was enacted, by which Yokohama Ward was formed to cover 80 towns including those areas mentioned above. In 1889, a municipality was incorporated in the limit of the Yokohama Ward. Yokohama as the largest trade port undertook the first annexation of town and villages in 1901, and the second annexation in 1911. After the Great Earthquake in 1923, the city policy as a port and industrial city was established by the reconstruction plan. The annexations were also carried out in 1927, 1936 and 1937, and with the 6th annexation in 1939 the present city limit was established. In the course of the growth of Yokohama city, it is noted that she grew as a trade port during Meiji to Taisho eras and she developed her characteristics as a heavy industrial city from Taisho to Showa eras including postwar days. In recent years, she assumes typical feature of a residential city as a bed town of Tokyo. The problem Yokohama is now facing will be how to build up a well-harmonized international administration city

0 0

0 0

市域面積の変遷〈明治22年~昭和44年〉 Progress of City Limit〈1889–1969〉



主な埋立事業 Representative Reclamation Works

	事業者	着工年	完成年	面積/ha
吉田新田〈2地区〉	吉田勘兵衛良信外	明暦2<1656>	明治6<1873>	138
泥亀新田〈2地区〉	永島段右衛門成鄉	寛文8<1668>	嘉永2〈1849〉	30
岡野新田	岡野勘四郎良親外	天保4<1833>	天保10<1839>	3
平沼新田	平沼九兵衛〈5~7代〉	天保10<1839>	不明	33
太田屋新田	太田敬明外	嘉永3<1850>	安政3〈1856〉	27
小野新田	小野高義外	江戸時代末期	江戸時代末期	不明
磯子間坂·浜地先	安藤庄太郎, 芦名金之助	明治32〈1899〉	大正3<1914>	37
生麦浦〈5地区〉	加山昇,横浜棧橋倉庫KK	明治33<1900>	昭和2〈1927〉	69
守屋町〈2地区〉	守屋此助	明治39<1906>	大正1〈1912〉	49
千若町·新浦島町〈4地区〉	横浜倉庫KK	明治40<1907>	明治44〈1911〉	44
安善町、末広町〈4地区〉	東京湾埋立KK	大正2<1913>	大正11<1922>	206
新山下町	横浜埋立KK	大正4<1915>	大正12<1923>	32
末広町地先	浅野造船所	昭和2〈1927〉	昭和7<1932>	34
潮田町地先	神奈川県	昭和3<1928>	昭和7<1932>	42
恵比須町・宝町・大黒町	横浜市	不明	昭和11<1936>	288
大黒町地先	横浜市	昭和30<1955>	昭和36<1961>	80
根岸湾〈3地区〉	横浜市	昭和34〈1959〉	昭和45<1970>予5	定 613
本牧埠頭関連産業用地〈5地区	〉横浜市	昭和38<1963>	昭和44〈1969〉	458
平潟湾〈柳町〉	横浜市	昭和38<1963>	昭和41<1966>	24
	一記亀新田〈2地区〉 一岡野新田 平沼新田 大田屋新田 小野新田 磯子間坂・浜地先 生麦浦〈5地区〉 守屋町〈2地区〉 ・ 守屋町〈2地区〉 ・ 千若町・新浦島町〈4地区〉 ・ 安善町・末広町〈4地区〉 新山下町 ・ 末広町地先 ・ 潮田町地先 ・ 恵比須町・宝町・大黒町 大黒町地先 ・ 根岸湾〈3地区〉	吉田新田〈2地区〉 吉田勘兵衛良信外 ・泥亀新田〈2地区〉 永島段右衛門成郷 一岡野新田 岡野勘四郎良親外 ・平沼新田 平沼九兵衛〈5~7代〉 ・太田屋新田 大田敬明外 ・小野新田 小野高義外 ・健子間坂・浜地先 安藤庄太郎,芦名金之助 ・生麦浦〈5地区〉 加山昇,横浜棧橋倉庫KK ・守屋町〈2地区〉 守屋此助 ・千若町・新浦島町〈4地区〉 東京湾埋立KK ・新山下町 横浜埋立KK ・素広町地先 浅野造船所 ・潮田町地先 神奈川県 ・恵比須町・宝町・大黒町 横浜市 ・大黒町地先 横浜市 ・大黒町地先 横浜市 ・根岸湾〈3地区〉 横浜市 ・本牧埠頭関連産業用地〈5地区〉横浜市	吉田新田〈2地区〉 吉田勒兵衞良信外 明暦2〈1656〉 泥亀新田〈2地区〉 永島段右衛門成郷 寛文8〈1668〉 同野新田 同野勘四郎良親外 天保4〈1833〉 天保4〈1833〉 天保4〈1833〉 天保4〈1833〉 天保10〈1839〉 未加屋新田 大田敬明外 嘉永3〈1850〉 小野新田 小野高義外 江戸時代末期 磯子間坂・浜地先 安藤庄太郎、芦名金之助 明治32〈1899〉 生麦浦〈5地区〉 加山昇、横浜棧橋倉庫KK 明治33〈1900〉 守屋町〈2地区〉 守屋此助 明治39〈1906〉 千若町・新浦島町〈4地区〉 横浜倉庫KK 明治40〈1907〉 安善町・末広町〈4地区〉 東京湾埋立KK 大正2〈1913〉 末広町地先 横浜埋立KK 大正4〈1915〉 末広町地先 神奈川県 昭和3〈1928〉 惠比須町・宝町・大黒町 横浜市 昭和30〈1955〉 根岸湾〈3地区〉 横浜市 昭和30〈1955〉 根岸湾〈3地区〉 横浜市 昭和34〈1959〉 本牧埠頭関連産業用地〈5地区〉横浜市 昭和38〈1963〉	吉田新田〈2地区〉 吉田勘兵衛良信外 明暦2〈1656〉 明治6〈1873〉 元亀新田〈2地区〉 永島段右衛門成郷 寛文8〈1668〉 嘉永2〈1849〉 一岡野新田 岡野勘四郎良親外 天保4〈1833〉 天保10〈1839〉 不明 平沼九兵衛〈5~7代〉 天保10〈1839〉 不明 木田壺新田 木田敬明外 嘉永3〈1850〉 安政3〈1856〉 小野新田 小野高義外 江戸時代末期 江戸時代末期

区制の変遷 Change of Ward System

年月日	新設区
昭和2年10月1日	区制施行. 鶴見区, 神奈川区, 中区,
	保土ヶ谷区, 磯子区
昭和14年4月1日	港北区,戸塚区
昭和18年12月1日	中区の区域を変更し南区を新設
昭和19年4月1日	中区,神奈川区の区域を変更し西区を新設
昭和23年5月15日	磯子区の区域を変更し金沢区を新設
昭和44年10月1日	港北区、保土ヶ谷区、南区、戸塚区を分割して
	緑区, 旭区, 港南区, 瀬谷区を新設

明治22年4月1日 市政施行 Apr. 1, 1889 Incorporation of Municipality.

明治34年4月1日 第1次合併 Apr. 1, 1901 1st Annexation

明治44年4月1日 第2次合併 Apr. 1, 1902 2nd Annexation 昭和2年4月1日 第3次合併 Apr. 1, 1926 3rd Annexation

昭和11年10月1日 第4次合併 Oct. 1, 1936 4th Annexation

昭和12年4月1日 第5次合併 Apr. 1, 1937 5th Annexation

●資料

昭和14年4月1日 第6次合併 Apr. 1, 1939 6th Annexation 埋立関係: 横浜市図書館

江戸期の埋立 Reclamation in Edo Period.

明治期の埋立 Reclamation in Meiji、Era.

大正期の埋立 Reclamation in Taisho Fra

大正期の埋立 Reclamation in Taisho Era. 昭和期(戦前)の埋立 Reclamation in Showa Era(Prewar).

昭和期(戦後)の埋立 Reclamation in Showa Era(Postwar).

日吉村 大綱村 新治村 都岡村 瀬谷村 保土ヶ谷町 大岡川村 中和田村 永野村 屏風浦村 大正村 豊田村 本鄉村 金沢町 六浦莊村